

**令和4年度ラムサール条約関係市連絡会議
取組事例集**

令和5年2月6日

ラムサール条約関係自治体 担当部局一覧

大津市	環境部 環境政策課
彦根市	市民環境部 生活環境課
長浜市	市民生活部 環境保全課
近江八幡市	市民部 環境課
草津市	環境経済部 環境政策課
守山市	環境生活部 環境政策課
野洲市	環境経済部 環境課
高島市	環境部 環境政策課
東近江市	市民環境部 環境政策課
米原市	市民部 自治環境課
滋賀県	琵琶湖環境部 自然環境保全課

ラムサール条約関係市連絡会議 取組紹介

所属名

大津市 環境部環境政策課

【ヨシ保全事業】

本市では、湖辺生態系の保全、水質浄化、湖岸保全など様々な機能を持つヨシ帯を保全するとともに、ヨシ帯を通して琵琶湖と私たちの生活との関わりを見直してもらおうと、平成2年度より毎年ヨシ保全事業に取り組んでいる。

(令和3年度の本市主催の市民ヨシ刈りは新型コロナウイルス感染症の市中拡大を防止すべく中止となった。今年度は開催に向けて準備を進めている。)



市民ヨシ刈りの様子

所属名

彦根市 市民環境部生活環境課

【水鳥観察会(快適環境づくりをすすめる会)】

自然を身近に感じていただくために、琵琶湖に飛来する水鳥の観察会を開催しています。

観察会は、市民団体(快適環境づくりをすすめる会)の主催ですが、開催情報を市の広報誌に掲載し、市民の皆さまにも情報提供をしています。



【外来水生植物駆除活動】

彦根市内の河川や水路等に生育している外来水生植物(ナガエツルノゲイトウなど)を、市と関係団体等が協力して駆除しました。



所属名

長浜市 市民生活部環境保全課（湖北野鳥センター）

長浜市には豊かな生態系を有する自然湖岸があり、人々の暮らしと今も密接に関係しながら大切に守られてきている。1988年に旧湖北町の湖岸一帯を「湖北水鳥公園」として整備、その中心施設として「湖北野鳥センター」を開設し、琵琶湖に生息する水鳥をはじめとする豊かな自然環境の保護や活用のための取り組みを行っている。

●豊かな自然資源を活用した体験型の環境学習プログラムの開発と実践

<湖北野鳥センター自然クラブ“こほたん”の活動>

湖北野鳥センターでは、長浜市の豊かな自然を、環境学習の資源として活用した体験型のプログラムを開発し実践している。自然に直接触れ、感じる体験を通して、自然や生き物に親しみを感じ、琵琶湖の自然を誇りに思う気持ちをはぐくむことを目的として市内小中学生とその保護者を対象として、1年間を通したプログラムを展開している。

小学生53名 保護者47名参加

<右写真>琵琶湖の浅瀬を歩いて生き物観察をしている様子



●地域の河川から琵琶湖の環境について考えるきっかけづくり

<長浜市水生生物少年少女調査隊（みずすまし）の活動>

市内の全小学校（24校）で、校区内に流れる河川の生物調査を行い、そこから水質や河川の環境について学ぶプログラムを展開している。調査用具や調査方法、講師などは市からの貸与と派遣でまかない、子どもたちの学習の補助などを教員でまかなう官学連携での事業を展開している。市内の各河川は、最後はびわ湖へとつながっており、地元の水環境の保全や保護がびわ湖の環境保全にもつながっていることを意識づける学習に発展させている。

市内24校 生徒501名参加

<右写真>草野川での活動の様子



所属名

近江八幡市 市民部環境課

【びわ湖水鳥観察会】

市内のボランティアグループ「チームむべなるかな」が毎年2月に西の湖で観察会を実施している。また、事前学習会、事後学習会も実施している。

事前学習会：2022年12月17日

水鳥観察会：2023年2月4日

事後学習会：2023年3月4日

【ヨシ狩り体験】

西の湖周辺のヨシ地の所有者が住民にヨシ刈り体験を呼び掛け、体験を通じて、ヨシの効用や水環境について学ぶことができる機会となっている。

所属名

草津市 環境経済部環境政策課

【草津湖岸コハクチョウを愛する会に対する活動支援】

草津湖岸コハクチョウを愛する会では、毎年12月から3月までの期間、湖岸緑地に仮設で水鳥観察所を設営され、観察所に常駐し水鳥を観察されている。また、年間を通じて、漂流物や放置ごみ、放置釣り具を回収する清掃活動を行うなど、コハクチョウを始めとする水鳥が飛来しやすい環境づくりに尽力されている。

市は、水鳥観察所の設営に係る手続きや、水鳥の観察に関する看板の設置など、草津湖岸コハクチョウを愛する会の活動に対し、支援を行っている。

また、令和3年度、野生生物保護思想の普及啓発、保護のための環境管理、生態調査、研究活動などに顕著な功績のあった方々に表彰される、野生生物保護功労者表彰（公益財団法人日本鳥類保護連盟会長感謝状）を受賞されている。



水鳥観察所付近に設置している看板と水鳥観察所の様子



水鳥観察所からの琵琶湖の様子

(次頁につづく)

【草津市立常盤小学校の取組】

滋賀県の愛鳥モデル校に指定されている常盤小学校では、毎年6年生が、地元のボランティアの指導のもとで、ヨシ刈りと水鳥観察会を実施されており、本年度は1月17日午後に実施された。ヨシ刈りでは、ヨシの特徴や利用方法、ヨシ刈りの目的などの話を聞いた後、道の駅草津の横にある湿地で、背丈以上に伸びたヨシを鎌で刈り取り、水鳥観察会では、湖岸緑地で、飛来している鳥の種類などの説明を受けた後、望遠鏡を使って観察された。当日は晴れわたる中、手が届くほど近くにユリカモメが飛んできたり、湖岸にカモ類が集まって餌を探したりする様子が観察できるなど、貴重なことを体験された。

1月20日には、校内で日本野鳥の会滋賀による愛鳥講演会が開催され、琵琶湖に飛来している水鳥の特徴や生態と、水鳥が生息する環境を守ることの大切さについて学習された。

また、今年度、野生生物保護思想の普及啓発、保護のための環境管理、生態調査、研究活動などに顕著な功績のあった方々に表彰される、野生生物保護功労者表彰（公益財団法人日本鳥類保護連盟会長賞）を受賞されている。



水鳥観察会の様子



水鳥観察会の様子



ヨシ刈りの様子



愛鳥講演会の様子

所属名

守山市 環境生活部環境政策課

【湖岸清掃運動・湖底ごみ除去活動】

令和4年11月12日（土）、木浜湖岸周辺・赤野井湖岸周辺にて、守山市主催の湖岸清掃運動とともに、赤野井湾再生プロジェクト主催による琵琶湖の湖底ごみの除去活動を実施した。

湖岸清掃運動では250名の参加者により410kgのごみが回収され、湖底ごみ除去活動では107名の参加者により153kgの湖底ごみが回収された。ごみ分析調査結果によると、1時間程度の作業で回収されたビニール袋は約400枚であり、プラごみが占める割合は約72%であった。



【琵琶湖をフィールドとした環境学習】

本市では、年間を通して、市内小中学校や一般市民を対象とした環境学習を実施している。

昨年6月には、琵琶湖に親しむフィールドワークを実施した。一般参加の19名とともに胴長を着用して琵琶湖に入り、シジミやテナガエビ、フナの稚魚など10種類以上の生物を発見することができた。また、琵琶湖の固有魚ホンモロコの貴重な産卵に立ち会うこともでき、参加者は子どもから大人まで満足度の高いものとなった。



所属名

野洲市 環境経済部環境課

【家棟川ビオトープ水鳥の観察会】

琵琶湖の内湖の実験的施設として「水質浄化」、「生態系の回廊」、「人と自然との関わり」等の創出を目的として整備された家棟川ビオトープ付近において、水鳥観察会を開催している。

※令和4年度については参加人数不足のため中止。



共催：NPO 法人家棟川流域観光船、滋賀自然環境研究会、
野洲市環境経済部環境課、南部土木事務所河川砂防課、
滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室

協力：独立行政法人水資源機構琵琶湖開発総合管理所

所属名

高島市 環境部環境政策課

【新旭町針江地先のヨシ刈り及び火入れ】

高島市新旭町針江の湖岸には、琵琶湖の原風景とも言うべき広大なヨシ群落があり、琵琶湖の三大ヨシ帯とされています。また、このヨシ群落は、琵琶湖の水質浄化や周辺に生息する生き物の生態系の維持、湖岸の保全など重要な役割を果たしています。高島市では、約2ヘクタールあるこのヨシ群落を健全に維持・管理するため、市内の活動団体やボランティアにより、毎年12月にヨシを刈り取っています。また、3月には新芽の成長を促すとともに害虫駆除で火入れを行い、湖西の春の風物詩となっています。

◆刈り取り作業



◆火入れ作業



所属名

東近江市 市民環境部環境政策課

【水鳥観察会】

越冬のため北から渡ってくる鳥類を伊庭内湖で観察する水鳥観察会を開催しています。観察会では、能登川水車とカヌーランド周辺の野鳥を観察し、どのような種類の野鳥がいたかの「鳥あわせ」を行います。過去の観察会では、絶滅危機増大種の「チュウヒ」など27種類を確認することができました。



野外での観察の様子



鳥あわせの様子

【伊庭内湖ヨシ刈り】

平成19年度に魚や鳥がすみやすい自然環境の保全をめざし、伊庭町自治会・伊庭内湖の自然を守る会などが中心となり、市が提唱する「伊庭の里湖（さとうみ）づくり」の一環として「ヨシ刈り」を始めました。

平成21年度からは「伊庭の里湖（さとうみ）づくり協議会」を立ち上げ、地元関係団体などの参加を得て実施して、今年度で14年目となります。



令和4年度のヨシ刈り作業の様子

所属名

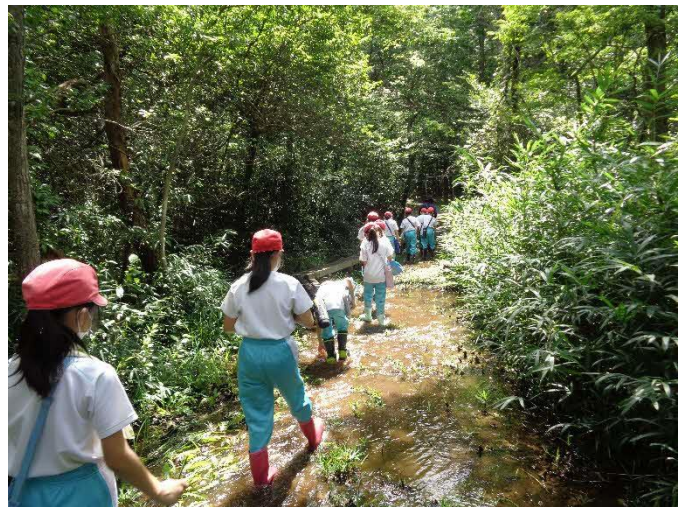
米原市市民部自治環境課

【山室湿原を考える会】

貴重な湿地である山室湿原を保全するため、平成9年に設立された山室湿原を考える会は、年間3回の運営委員会、夏と秋の保全活動、また夏には湿原観察会を行っている。地元の小学校（山東小学校）において、春と夏と秋に講師の方のお話や観察会などの環境学習が行われた。



6月の湿原観察会の様子



8月の湿原観察会の様子

所属名

滋賀県 琵琶湖環境部自然環境保全課

【愛鳥モデル校の指定】

愛鳥思想の高揚および自然保護の重要性を体験学習する機会を提供するため、市町および県教育委員会の協力を経て、「愛鳥モデル校」を指定している。愛鳥モデル校では、野鳥の専門家を各校に派遣し、野鳥についての講演会や観察会を開催している。

令和4年度現在、小学校5校、小中学校1校の計6校が指定されている。



愛鳥講演会の様子



野外観察の様子

(次頁につづく)

【ラムサールびわっこ大使事業】

本県の環境保全の取り組みのさらなる発展を促進させる次世代のリーダー育成を目的に、平成20年度から国内外のラムサール条約登録湿地や国際会議等に派遣している。

令和4年度は、県内の小学校5、6年生10名が大使として活動した。全4回の県内における事前学習会では、琵琶湖の環境保全についての学習や、ふなずし漬け、野鳥観察等を実施した。県内での学習を踏まえ、12月にはラムサール条約登録湿地である福井県三方五湖へ行き、地元の三方五湖子どもラムサールクラブとの交流学习を実施した。また、8月にはびわっこ大使 OBOG との交流会では MLG s (マザーレイクゴールズ) をテーマとしたワークショップを実施した。



沖島でのふなずし漬け



水鳥観察



福井県三方五湖での交流の様子



OBOG 交流会の様子